

※最新版は

http://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.5

このように考えよう、合理的配慮



「合理的配慮」の提供で、子供の本来の力を引き出そう！

クラスの中に、他の子供と同じ学習方法や教材の使用では思うように学習が進まず、困りごとを抱えている子供たちがいたら、まずは、子供がなぜそうなっているのかに思いを巡らせてみましょう。実は、その背景には障害特性が関係していて、子供自身の努力だけではどうしようもない場合も考えられます。そのような子供の課題に対して、その状態を解消・軽減し、子供たちが他の子供と同様に本来の授業のねらいに応じた学習活動に無理なく参加するための配慮や支援をすることが、「合理的配慮」の提供です。合理的配慮の適切な提供で、困りごとを抱える子供が、次第に本来もっている力を発揮していくことでしょう。

◆学習を進める上で上手くいかないことの中には、子供自身の努力だけではどうしようもないものがあります。

◆合理的配慮を提供することで、子供が本来の力を発揮し、他の子供と同様に学習活動に無理なく参加することができるようになります。

はじめの一步は、子供たちの困りごとに思いを巡らすこと

クラスの中には、さまざまな子供たちが在籍しています。例えば、授業中、クラスの中にこのような子供はいませんか。

- 板書を鉛筆でノートに書き写すけれど、書くことに一生懸命で授業内容を理解する余裕がないように見える。
- 作文を書くときに、いつも原稿用紙のマス目から文字がはみ出てしまい、その度に指摘するが直らない。
- 教科書の文章を読むときに、本人は行に沿って読んでいるつもりなのに、いつも行の飛ばし読みがあり、指摘するも直らない。

このように子供たちが学習を進める中で、他の子供と同じ学習方法や教具の使用では思うように学習が進まず、困っている子供はいませんか。そのような子供を見つけたら、まずは子供がなぜそのような状態になっているのかについて思いを巡らせてみましょう。実は、その背景には障害特性が関係していて、決して、子供がそのことを何とかしようと努力していないのではない場合も考えられます。そのような場合には、早めに何らかの対応策を講ずる必要があります。



子供の状態について思いを巡らすことが大切

子供の困りごとに対する合理的配慮の提供のプロセス

前述した教科書の文章を読むときに、本人は読んでいるつもりなのにいつも行の飛ばし読みをする子供がいるとします。そのような状態になっているのは、なぜなのでしょう。例えば、文章を目で追うことが難しいので読み飛ばしをしてしまう、語のまとまりが分からないので読み飛ばしをしてしまう、文字を注視することが難しいために行を読み飛ばしてしまうなど、何らかの要因でそのような状態になっていることが想定されます。また、単に子供側の要因だけでなく、例えば、照明が明るすぎるので文字が光に反射して見えなくなり読み飛ばしてしまう等の環境要因も考えられます。

次に、考えられる要因に対して、どのような配慮や支援を行うことで、その状態を解消・軽減できるかを考え、実際に配慮や支援を行います。この時に、子供本人や保護者と相談しながら、どのような配慮や支援を行うとその困りごとが解消・軽減できるのかを検討すると良いでしょう。その際には、可能な限り本人の考えや意見に耳を傾けましょう。

このように一人一人の子供たちの困りごとやつまずき、子供自身の努力だけでは解決できない課題に対して、その状態を解消・軽減し、その授業の本来のねらいに応じた学習活動に、他の子供と同様に無理なく参加するために配慮や支援をすることを「合理的配慮」の提供と言います。「合理的配慮」の提供は、視力が悪い子供が眼鏡をかけるのと同様に、障害特性等により、学習を進める上で困りごとを抱える子供が、他の子供たちと一緒に学習に臨めるようにするために必要な配慮を提供するものです。



読むことが困難で密かに困っている子供がいます

合理的配慮を提供するときの留意点

合理的配慮を提供するにあたり、まずは、子供や保護者と一緒に配慮や支援の方法を検討・決定していくことが大切です。(いわゆる「合意形成」と呼ばれているものです。)また、配慮や支援の方法を決定したら、実際にその子供に対して合理的配慮の提供を行います。合理的配慮の提供で、困りごとを抱える子供が、次第に本来もっている力を発揮していくことが期待されます。

しかしながら、提供した配慮や支援が、必ずしも子供の困りごとの解消・軽減につながらない場合もあります。その場合には、子供や保護者と一緒に別の配慮や支援の方法を考えていきましょう。合理的配慮は、一度決めたら、その配慮や支援をずっと続けるのではなく、必要に応じて柔軟に見直していくことが大切です。

合理的配慮を提供する際の留意点としては、子供たちの中には、授業の中で、自分一人だけ特別な配慮や支援を受けることを極端に嫌がる子供もいます。その場合、子供の気持ちに寄り添い、その子供だけ「特別扱いしていない、されていない」と思えるような配慮や支援についても考えることが大切です。例えば、特定の子供のために導入することにした合理的配慮の提供が、その子供だけでなく、クラスの他の子供たちにとっても有効で役立つかもしれません。そのような配慮や支援であれば、特別扱いされたことにならず、安心して取組めるでしょうから、このようなクラス全体で役立つ配慮や支援を増やしていくことも大切です。

☆さらなる理解のために☆

困りごとを伝えられる関係づくり

「合理的配慮」の提供は、一人一人の子供の状況に応じた配慮や支援の提供を行うことが重要ですが、そのためには、その子がどのようなことで、どのくらい困っているか、上手いかわらないのかなどを、的確に把握することが不可欠です。このため、その子供が先生に困りごとを率直に話してもらえようような雰囲気の中で話を聞くようにすることや、その子供が自分の困りごとを周りの誰かに伝えられるような学級づくりや人間関係の形成に努めることが大切です。

「合理的配慮」の提供についての情報共有

障害のある子供に合理的配慮の提供を行うことについて、最初は学年団や教科担任の中で合理的配慮の情報を共有するのも良いですが、その内容を校内の特別支援教育コーディネーターに伝え、学校全体で情報を共有するようにすると良いでしょう。学校全体で合理的配慮についての情報を共有し、その子供に応じた配慮や支援を行うことで、あらゆる活動に子供が無理なく参加出来るようになり、学習意欲の向上にもつながります。

また、校内で合理的配慮の提供を充実していくためには、特別支援教育コーディネーター等が中心となり、学校全体で合理的配慮の提供について取り組むべきことを職員に伝え、合理的配慮に関する研修を行う等、合理的配慮についての理解を深める様にしていきましょう。

<参考情報>

[○独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所「インクルDB（「合理的配慮」実践事例データベース）」](#)



子供の実態から、どのような合理的配慮が有効かについて、参考となる事例を掲載しています。検索機能も付いていますので調べてみましょう。

[○福島県特別支援教育センター「合理的配慮理解啓発リーフレット」](#)



合理的配慮の基礎的な説明や提供のプロセス、具体的な実践例について掲載しています。

[○長野県教育委員会「合理的配慮実践事例集」](#)



合理的配慮実践事例集です。特に第2章「合理的配慮」や第5章「ワンポイント配慮～こんなとき どうする」は、合理的配慮を考える際の流れなどがわかりやすく説明されています。

